

研究報告

〈小学校 道徳〉

思考を深める道徳授業づくり ～発問の工夫を通して～



宮古島市立教育研究所 第15期研究教員

宮古島市立佐良浜小学校 下里 道代

目次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	2
IV	研究構想図	2
V	研究内容	3
1	理論研究	3
(1)	道徳教育における改正の概要	3
(2)	道徳科における学習	5
(3)	思考を深める道徳の授業づくりとは	7
(4)	発問の工夫	7
VI	仮説検証のための授業実践	11
1	主題名	11
2	主題設定理由	11
3	研究主題とのかかわり	13
4	本時の展開	13
5	ワークシート	15
6	検証授業の指導計画	16
7	板書	16
8	「思考を深める道徳授業づくり」につながる指導方法の工夫	17
9	読み物資料	19
10	本時の成果と課題【指導助言】	21
VII	結果と考察	22
1	調査研究の結果	22
2	仮説の検証	24
VIII	研究の成果と課題	27
1	成果	27
2	課題	27
	〈主な参考文献並びに引用文献〉〈指導助言〉	27
	〈資料〉	28

〈小学校 道徳〉

思考を深める道徳授業づくり

— 発問の工夫を通して —

宮古島市立佐良浜小学校 教諭 下里道代

I テーマ設定の理由

近年、グローバル化が進み科学技術や社会・経済が大きく変化する中、様々な文化や多様な価値観を背景とする人々と互いに尊重し合うことや、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが一層重要となっている。しかし、最近の子ども達を取り巻く環境はいじめや不登校、暴力行為といった問題行動が深刻化し、様々な問題が山積している。

そこで、このような諸問題の改善を図るため2015年3月に小学校学習指導要領が一部改正。道徳の教科化が正式に告示された。本改正により「道徳の時間」を「特別の教科 道徳（道徳科）」として新たに位置づけることで、いじめや子どもの心の問題への対応を重視し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳教育の充実が一層求められた。

また、従前の道徳教育は軽視されがちで忌避しがちな風潮があることや、読み物資料から一定の価値観のみを読み取り、形式的な指導が行われているという諸課題を踏まえ、答えが一つではない道徳的な価値を、一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換が図られた。

これまでの道徳授業実践を振り返ったとき、「このときの気持ちは？」「このお話には誰が出てきましたか？」などと心情理解や場面把握的な発問を連発することが多かった。その結果、当たり前の答えや分かりきったことを言わせるだけになってしまい、子ども達から「つまらない」「楽しくない」などの意見があった。他教科でみる子ども達は「不思議だな」と思う気持ちが人一倍強く、「なぜ？」「明らかにしたい」と弛みない気持ちで物事を考えたり追求しようとする。やはり、子ども達自身が学びの主体者として自己の意思で考えようとし、自らの生き方を考えることができる道徳授業づくりの工夫・改善が必要である。また、決まりきった答えとなる発問を用意し、教師の意図する価値を知識として観念的に理解させたり、解決（結論）の一致を求める展開が多いという課題がある。そのため、子ども達は一面的な価値理解に止まり、他者の意見や感じ方と比較・検討したり、物事を自分との関わりで考えるには至っていない。そこには、道徳の時間は、子ども達が多様な価値観をもつ存在であることを前提に、他者と対話したり協働しながら、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての思考を深める学習であるという視点が弱いからだと考える。

子ども達が今まで知らなかった考え方を知り、自分の考えを深め、学びのある道徳授業を行うためには、発問の工夫が鍵となり発問は十分吟味されなければならない。

そこで、本研究においては発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深めることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

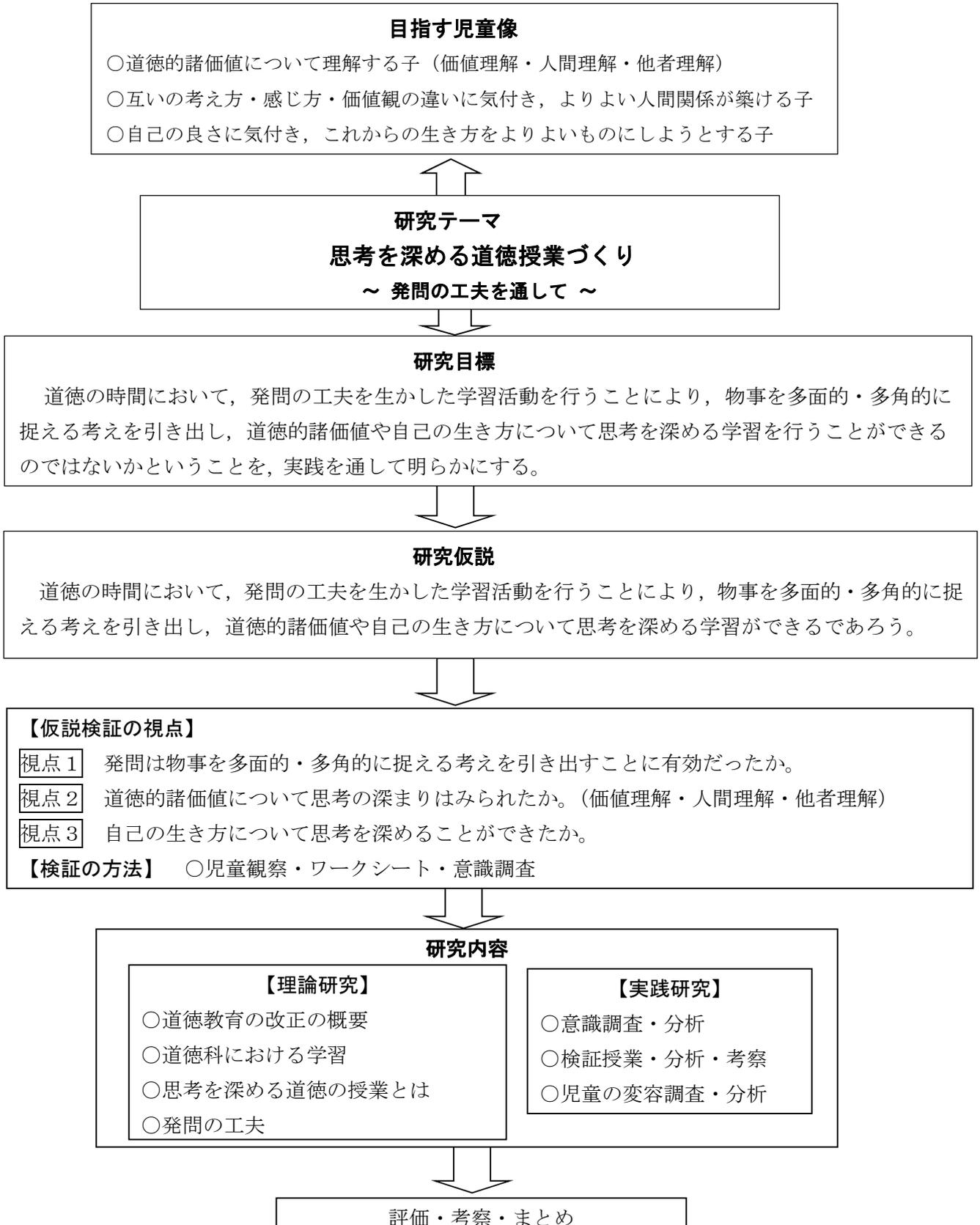
II 研究目標

道徳の時間において、発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深める学習を行うことができるのではないかとすることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究仮説

道徳の時間において、発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深める学習ができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 理論研究

2015年、小学校及び中学校の学習指導要領が一部改正、道徳の教科化が正式に告示された。1945年、終戦の年に修身科が廃止され、1958年の学習指導要領に「道徳の時間」が特設されて以来、約60年に及ぶ道徳教育の大転換である。

そこで、まず、本研究内容においては、道徳教育がこれからどのように転換されるのかという「改正の概要」、次に、道徳の時間から「特別の教科 道徳（道徳科）」となり授業はどう変わるのかという「道徳科における学習」、最後に本研究テーマ及びサブテーマについて研究を進めていく。

(1) 道徳教育における改正の概要

① 「道徳の時間」を「特別の教科 道徳（道徳科）」として位置づけ

道徳教育の特性から、道徳の時間は学習指導要領に示される内容を体系的な指導により学ぶという教科と共通する側面がある一方で、道徳教育の要となって人格全体に関わる道徳性の育成を目指すものであり、学級担任が担当することが望ましいと考えられること、数値による評価はなじまないと考えられ各教科にはない側面があること等を踏まえて、学校教育法施行規則において「特別の教科 道徳(道徳科)」として新たに位置付けられた。

② 目標を明確でわかりやすいものに改善

【改正 道徳教育の目標】

道徳教育は、教育基本法並びに学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

【特別の教科 道徳（道徳科）の目標】

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



【道徳の時間の目標】

道徳教育の目標は、第1章総則第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこと。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、進化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

従前の目標にある「各教科等と密接な関連」や「計画的、発展的な指導による補充、深化、統合」は「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」に整理した上で表現が改められた。また、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め」については、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と改正された。さらに「道徳的実践力を育成する」は、より具体的に「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と、育成すべき資質・能力が明確化された。

道徳性の育成が道徳教育の中核であり、道徳性を養うための授業が道徳科となり、どちらも「道徳性」の育成が目標であると明示された。

③ 道徳の内容を発達の段階を踏まえた体系的なものに改善【資料③参照】

- ・ キーワードを付け、発達段階の一貫性を分かりやすく明示
小学校から中学校までの内容を体系的に高めるとともに、内容項目ごとに内容を端的に示すキーワード（例「正直、誠実」「公正、公平、正義」等）も併せて明示された。
- ・ いじめや子どもの心の問題に対応
小学校低学年に「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」、中学年に「相互理解」「公正、公平、社会正義」、高学年に「よりよく生きる喜び」について、新たに内容項目を追加した。
- ・ 4つの視点の順序の見直し
内容項目のまとまりを示していた視点については、「C 主として集団や社会に関すること」・「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」が入れかわり、子どもにとって対象の広がり即し整理し直された。

④ 多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善する。

児童生徒の発達の段階を踏まえた上で、対話や討論など言語活動を重視した指導、道徳的習慣や道徳的行為に関する体験的な学習や問題解決的な学習を重視した指導など、多様で効果的な指導方法の積極的な導入が求められた。

⑤ 検定教科書の導入

民間発行者の教科書と、中心となる教材として検定教科書が導入されることとなった。道徳科の指導の充実のためには、以下のことも重要であると示されている。

- ・ 発達の段階や特性、地域の実情等も考慮した多様な教材の活用。
- ・ 特定の見方や考え方に偏っておらず、多様な見方や考え方が可能であること等。

⑥ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の充実【現在、検討が継続中】

道徳科評価の具体的な在り方については、

- ・ 数値による評価ではなく、記述式であること。
- ・ 他の児童との比較による相対評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め励ます個人内評価として行うこと。
- ・ 他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要がある。
- ・ 個々の内容項目ではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- ・ 発達障害等の児童について配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。
- ・ 現在の指導要録の書式における「総合的な学習の時間の記録」、「特別活動の記録」、「行動の記録」及び「総合所見及び指導上参考となる諸事項」などの既存の欄も含めて、その在り方も総合的に見直すこと。

を前提に専門的に検討を行い、教師用指導書の作成や指導要録の改正を行うとしている。各学校においては、これらに基づき適切に評価することが求められている。

⑦ 移行措置について

改正学習指導要領は、平成 27 年度から移行措置として、その一部又は全部を改正学習指導要領に基づき指導を行うことが可能となっている。小学校は平成 30 年度から中学校は平成 31 年度から全面实施されることとなる。

(2) 道徳科における学習

道徳科は、道徳科以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補ったり、深めたり、相互の関係を考えて発展させ、統合させたりすることで、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳性を養うことを目標としている。

① 「道徳的諸価値について理解」とは？

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされているものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。道徳的価値の自覚を深めるためには、次の3つの視点について考えたり、理解を深めたりする場面を授業に取り入れることが大切であるとされている。

<p>その1 『価値理解』</p> <p>☆道徳的価値は大切であること</p>  <p>友達と仲良くするのは楽しいな。</p>  <p>目標に向かい、頑張っただけでやり遂げたときは充実感でいっぱいだなあ。</p>	<p>その2 『人間理解』</p> <p>☆道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと</p>  <p>困っている人に親切にするのは大切だけど、自分から声をかけるのは難しいなあ。</p>	<p>その3 『他者理解』</p> <p>☆道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること</p>  <p>正しいと思ったことを行動するにもいろいろな考え方があるんだなあ。</p>  <p>「ありがとう」の思いにもいろいろな思いがあるね。</p>
--	--	---

② 「自己をみつめる」とは？

ア 人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分のこととして考えたり感じたりすること。

イ これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方を照らし合わせながら、更に自分の考えを深めること。(自己理解)

ウ 自らを振り返って成長したり、これからの課題や目標を見付けたりすること。

③ 「自己の生き方についての考えを深める」とは？

ア 道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起することができるようにすること。

イ 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴を知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにすること。

ウ これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めること。

④ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

道徳的な判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望ましいのか判断する力。
道徳的心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。
道徳的実践意欲	道徳的心情や道徳的判断力によって価値あるとされた行動をとろうとする傾向性。
道徳的態度	道徳的判断力、心情、実践意欲に裏付けられた道徳的行為への身構え。

⑤ 物事を多面的・多角的に考える→「考える・議論する道徳」へ授業転換！

上地(2015)によると、「道徳科の目標の中で注目すべきは、『多面的・多角的に考え』という文言が小・中学校ともに新たに導入された点である。物事を多面的・多角的に考えるということは、当然『唯一の正解』など想定不能であり、しかも、そういった正解を伝達することではなく、考えるというプロセス自体が非常に重要になってくる。実際に、こうした観点の強調は指導に当たって配慮すべき事項として改正学習指導要領において明示されている。たとえば、『道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること』に配慮することや、言語活動の充実を図る際に、『様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けると共に、生徒が多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出していけるように留意すること』（中学校）という記述に、今回の改正の趣旨が見られるといえる。」と述べている。

また、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（以下 道徳編と表記）」には、「特定の価値観を児童生徒に押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するように指導したりすることは、道徳教育の目指す対極にあるものと言わなければならない。」「多様な価値観の時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳として問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養う基本的姿勢である。」との答申を踏まえ、「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図るものである。」と明示している。

今後、道徳科においては、多様な考え方や感じ方に接することが大切となり、様々な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協同したりしながら、物事を多面的・多角的に考えていく授業づくりが求められている。

⑥ 主体性を育む道徳科

道徳の教科化に関しては、長年「賛成か反対か」という二項対立で捉えられてきた。上地は(2015)は、道徳の時間が戦前の歴史的経緯に影響された修身科へと逆行させないため、道徳の時間の特設に賛成する勝部真長の主張（3つの留意点）を紹介している。

「第1の留意点は、道徳的な問題に対してなぜそうするのかという理由を考えることである。勝部によれば、戦前の修身科では理由を問わず、とにかく正しいとされることに無条件に従うことが求められたが、宗教や国家の権威を後ろ盾としない戦後道徳では、理性に基づいて道徳を立てていくしかなく、理由を考えることが非常に重要となる。第2の留意点は、良いと思われる複数の選択肢からどうすべきか自分で選択する力を養うことである。第3の留意点は、教師が教科と同様に指導的な立場に立って『上』から偉そうに教えるのではなく、教師が児童生徒と共に人格の完成という目標に向かって共に進むというスタンスが重要になる。本改正は勝部の留意点を改めて強調したと捉えることができる。」と述べている。

戦前、日本の国民が「お上」の言うことを疑わなかった、自分でものを考えようとしなかった結果、悲惨な戦争に巻き込まれていったという歴史を振り返ったとき、社会の担い手となる子ども達に、教えられたことや与えられた知識を鵜呑みにさせるのではなく、自らの問題として主体的に考え、問題の解決を目指し話し合い、行動する、そのような経験こそが重要となる。

今後、道徳科においては様々な角度から物事を考え、主体的な学びのある「考える道徳」、「議論する道徳」が学習の中核を成していく。

(3) 思考を深める道徳の授業づくりとは

上地(2011)は、「人々の考え方、感じ方、どのような人生や幸せを望むかといったことは人それぞれであり、『友情』や『誠実』という言葉で何を意味するかということも、人によって異なるはずである。

道徳として、統一的な価値があるとか、あるべきであるという考え方、そしてそうした統一的な価値をすべての子ども達に確実に教え込むべきだという考え方は、そういった個々の差異を無視し統一的な価値という枠に無理矢理彼らをはめ込もうとする試みであるといえる。したがって、価値多様化における道徳教育は、人々の差異を無視して統一性を強いるのではなく、個々が異なるという差異から出発しつつ、いかにして社会の中に連帯をつくりだすかという課題が重要である。」と述べている。

また、道徳では『考える』ことがますます重要になり、その考えたことを個人の頭の中に閉じ込めておくのではなく、クラスの仲間と共にその考えの『正しさ』を吟味し、話合うことで共有を図ることが必要となる。」と明示している。

これらを踏まえて、思考を深める道徳の授業づくりとは、一人一人の価値観の違いを尊重しつつ、子ども達が主体的に共有できる価値の正しさを自分たちで創り変えていく授業であると考えられる。解決(結論)の一致よりも、解決を求めて考え合い、追求していく授業であると捉える。異なる意見や資料の中の様々な生き方に出会いながら、自分の考え方や感じ方を見つめ直し、自分の心にある人間的なよさを肯定的に捉え、自分の生き方について問い直すことのできる授業であると考えられる。

(4) 発問の工夫

① 発問について

道徳編では、「教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要であり、発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出されるためにも、考える必然性や切実感のある質問、自由な発想を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切である。」と示されている。

② 発問分類

表1 発問分類表

基本 発問	<p>ねらいを達成するために欠かせない発問。他の発問をもつては変えることができず、授業の骨組みに当たる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実確認を問う発問 ・主人公の生き方、感じ方や考え方を問う発問 ・ねらいとする価値に関わる発問 ・最後のまとめの段階での発問
中心 発問	<p>ねらいを達成するために特に重要な発問。児童から多様な考えを引き出すための発問が「中心発問」である。この「中心発問」によって、ねらいとする道徳的諸価値や物事を自分との関わりで考え、友達の考えと比較・検討することによって、自己を見つめ自己の生き方について深く考えるようになる。資料の中では、主人公の人間としてのよさや、新たな生き方や考え方に気付き、行動に移す場面などに「中心発問」が用いられる。</p> <p>【中心発問の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に考えることができ、多様な価値観が出せるものであること。 ・自己の本音や心情を語らせるものであること。 ・児童の興味だけでは答えられない発問であること。 ・資料とねらいを達成するため、欠いてはならない発問であること等。
補助 発問	<p>多様な感じ方や考え方を十分に引き出せなかった場合、物事を多面的・多角的に考えさせたい時、思考を深めたい場合に「揺さぶり発問」や「批判的な発問」等の補助発問を取り入れる。</p>

③ 思考を深める発問の工夫

効果的な発問を行うためには、本時のねらいとする道徳的価値に気付くことができるように、ア 発問の内容、イ 数、ウ 内容、エ 順番、オ 発問構成などを吟味することが大切であるといわれる。そこで、思考を深める道徳授業づくりにおいては、前述（ア～オ）を押さえたうえで、以下のような「発問の工夫」を行うことが重要であると考えられる。

ア 発問構成前に、学習の終末においてねらいが達成できた姿を具体的にするために、「表れてほしい多様な児童の意識」を明らかにする。そして、その意識へ向かうために児童に思考を深めてほしい課題について考える。

イ 子ども達が分かったつもりでいる物事に対して思考や認識に疑問や混乱を生む「ゆさぶり発問」「批判的な発問」「二つの概念が矛盾する発問」などの補助発問を仕組む。

ウ 問い返しや追求する発問→「なぜそう思うの?」「〇〇とは何かな。(例)思いやりとは何かな)」
 詳述させる発問→「もっと詳しく教えて。」「なぜ、〇〇が大切なのだろう。(例)なぜ、思いやりは大切なのだろう)、切り返す発問→「みんなもそう思うの?」「〇〇君の気持ち分かる人いない?」
 つっこむ発問→「本当にそうなの?」「どうして〇〇の大切さは分かるのに、できないのかな。」「どうすれば〇〇の行動ができるのかな。」等を取り入れる。

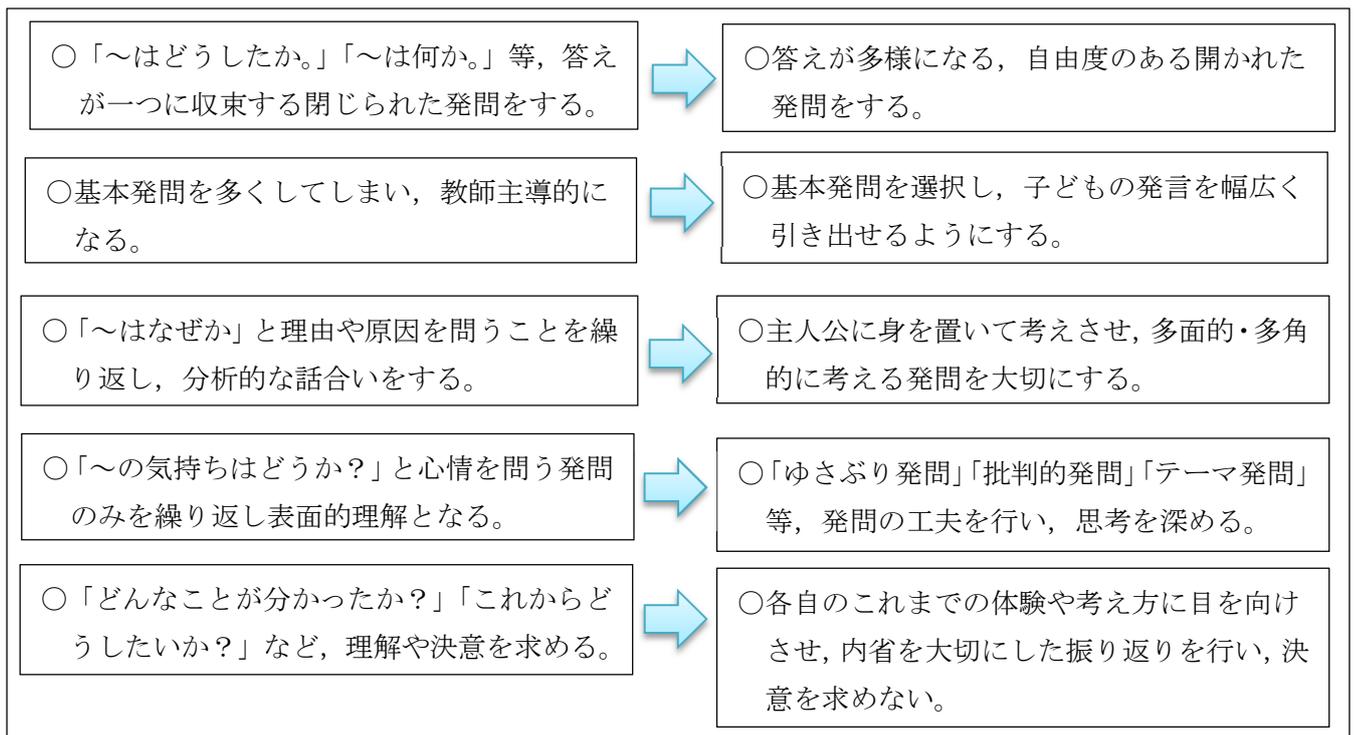
エ 一人一人の考えの発表や、教師と児童による一問一答ではなく、学級全体に広げて考えさせる。

オ 相違点を明らかにする発問「よりよいのはどれですか?」「あなたなら、どちらを選びますか?」
 共通点を明らかにする発問「どの考えにも共通する大切なことは何だろう?」と問うことで、共通点や相違点に気付かせる。

カ 「～さんの立場になって考えよう。」など視点を変えさせる発問により、多角的に考えさせる。

これまでの道徳授業のような「この時の気持ちは・・・。」と場面ごとに発問を連発し、当たり前前の答えを求める発問から、前述（ア～カ）のような発問を取り入れた学習活動を行うことで、児童から物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出すことができ、思考を深める道徳授業が実践できると考える。

④ 発問の改善視点



資料1 発問の改善視点

⑤ 発問構成の基本的な考え方

- ア 発問を構成する場合は、中心発問や中心課題となる発問をまず考え、次にそれを生かす前後の基本発問、補助発問を考えるという手順が有効な場合が多い。
- イ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のどこに重点を置くのか明確にする。
- ウ 何を、いつ、どこで、なぜ、どう問うのか、を明確にする。



資料2 発問構成の基本的な考え方

⑥ 発問における留意点

- ア 児童の発言をしっかり傾聴し、一人一人の考えを認める。
- イ じっくり考える時間を与える。
- ウ 児童の表情、つぶやき等、声にならない声にも気を配る。
- エ 単発の話合いにならないように、比較、練り上げ等ができるような手立てを考える。
- オ 方向性や考える視点を与えるような助言をする。

⑦ テーマ発問と発問構成

永田(2015)は、資料のもつ価値や主題そのものに関わってそれを掘り下げ追求する発問を「テーマ発問」とし、次の四つの視点で整理している。

- | | |
|-------------------|------------------|
| (1) 資料への自己の生き方の投影 | (2) 主人公の生き方の吟味 |
| (3) 資料のもつテーマの追求 | (4) 資料を生かした自己の検討 |

資料3 テーマ発問の4つの視点

導入段階の発問は、(3)の視点に当たる。永田は展開、終末段階においても、このような視点の発問を取り入れることで、一貫して主題を追求し、物事を多面的・多角的に考えることができると提唱している。永田が提唱する「テーマ発問」の発問例を示す。

表2 テーマ発問と発問構成

過程	授業展開	発問の視点	具体的発問例
導入	①主題についての現在の受け止めを知る。 ②主題を追求するための問題意識をもつ。	○主題について現在の受け止めを問う。(3)	☆ ○○とはどういうことだろう。 ☆ ○○とは、何だろう。
展開前段	(資料提示) ③いくつかの問いで主題を追求する。 ④導入の問いについて更に深く主題を追求する	○主人公の生き方について、共感的・批判的な考えを問う。(1) ○主人公と自分とを重ねて考えを問う。(4) ○主題についての意味やよさを問う。(3)	☆ ○○の生き方を支えているものはなんだろう。 ☆ ○○が大切にしているものは何だろう。 ☆ ○○の考えが変わったのはなぜだろう ☆ 自分ならどのようにするだろう。 ☆ 主人公と自分とは、どんなところが違うだろう。どんなところが似ているのだろう。 ☆ 本当の○○とはどんなものだろう。
展開後段	⑤主題を自分の生活に当てはめて考える。	○自分が学んだこと、考えたことを問う。(1)	☆ この話から自分が学べたこと、深く考えたのはどんなことだろう。
終末	⑥学習を振り返りながら主題について考える。	○学習を振り返って、自分が考えたことや気付いたことを問う。(4)	☆ 話合いの中で、自分の考えが変わったところはないだろうか。

⑧ テーマ発問の特色

加藤(2015)は「授業では『場面発問型』と『テーマ発問型』の双方のよさを臨機応変に取り入れることが大切である。しかし、今後、道徳科においては従来の場面発問の数を減らし、生き方を問うテーマ発問をメインに考えていくことが重要。」と述べている。

<p style="text-align: center;">【場面発問】</p> <p>資料中にある場面に即して、そこでの登場人物の心情や判断、行為の理由などを問うたり、気づきを明らかにしたりする発問。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・～のとき〇〇の気持ちはどんなだろう。 ・～のところで〇〇はどう思っただろう。 ・～するときの心の中はどんなか等。 </div> <p>★場面ごとに停車して主人公の思いなどを深めていく。</p>	<p style="text-align: center;">【テーマ発問】</p> <p>資料の主題やテーマそのものに関わって、それを掘り下げたり追求する発問。「主題発問」ともいう。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇が大切にしていることは何だろう。 ・～は、～には、どんな意味があるのか。 ・どんなことが問題なのか等。 </div> <p>☆地図を持って運転するような思いで話合いが進み、議論型の授業となる。</p>
---	---

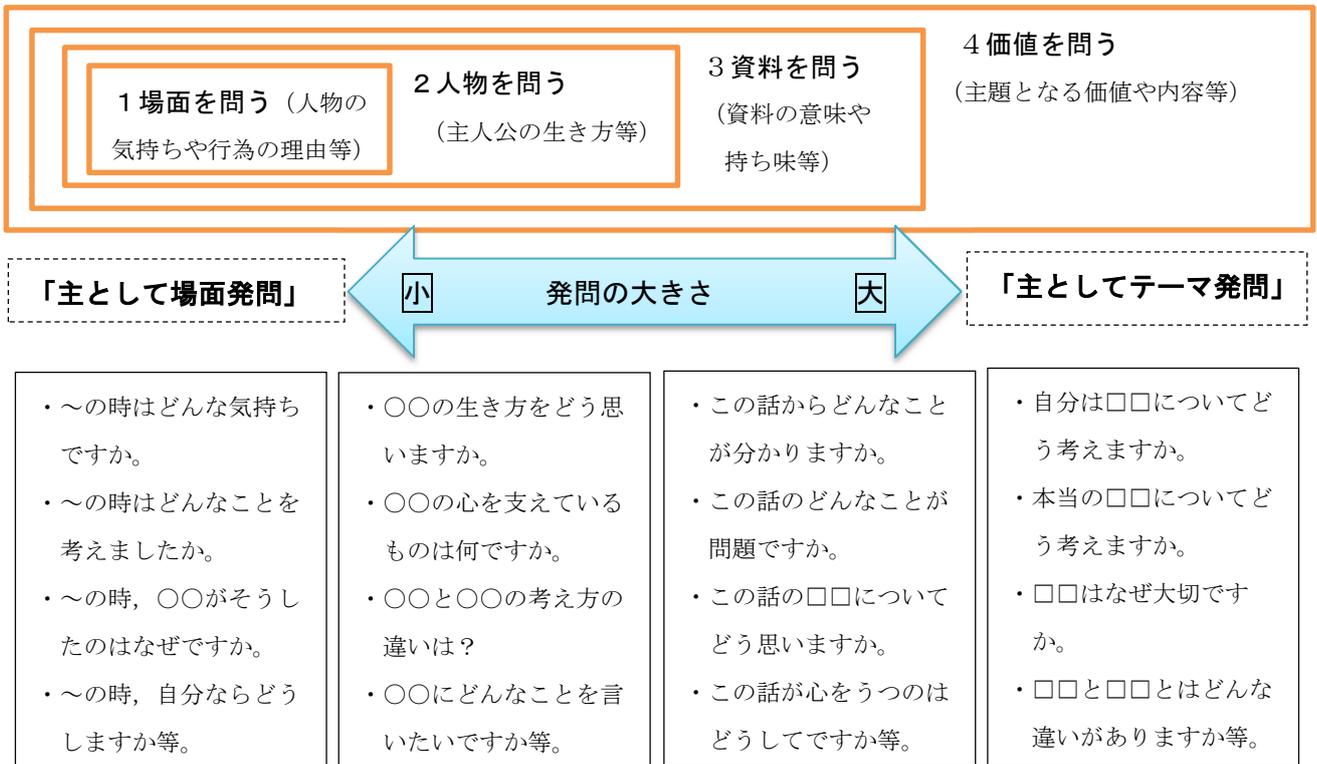
テーマ発問の特色

- 主人公の気持ちではなく、子ども自身の考えを問うことが多い。
- 子どもの生き方につながる考えが直接語られることが多い。
- 資料の一場面ではなく、資料や話の全体に着眼することが多い。
- 授業や資料の持つ主題（問題）に直接係わる発問が多い。

資料4 場面発問とテーマ発問の特色

⑨ 発問の大きさ

永田は、「場面発問だけでなく、発問の大きさを意識して大きな発問も授業に折り入れることで、子どもが物事を多面的・多角的に考えを深める授業になる。」と述べている。



資料5 発問の大きさと発問例

VI 仮説検証のための授業実践

第6学年学習指導案

平成28年1月27日(水)

宮古島市立佐良浜小学校

6年1組 男子13名 女子5名

授業者 下里 道代

1 主題名 相手の立場に立って親切に B- (7) 親切, 思いやり

資料名 カーテンの向こう 中学校副読本 ※一部改作

2 主題設定理由

(1) ねらいとする価値について

本主題の内容項目は、第5学年及び第6学年のB「主として人との関わりに関すること」(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」ことをねらいとしている。

思いやりをもち親切にすることは社会生活を営む上で大切な価値であり、人間のごく日常的な道徳的実践の基盤ともなる心情である。思いやりとは、相手の置かれている状況やそのときの心情を想像し、それに共感して生じる気持ちであると考えられる。親切とはそれを行為に表したものであり、親切の行為の背景には思いやりの気持ちが必ず必要である。

しかし、思いやりの心があれば、すぐに親切な行為に移せるかというところではない。相手の立場に立って思いやりのある行動をするには、それを妨げる様々な要因を勇気や信念などで乗り越える必要もある。この学習を通して、相手の状況や困っていることなどを想像し、相手の立場に立ち思いやりのある行動を行うことの良さや、自己犠牲的なことではなく、その行為に共感して生じる気持ちをもとに、思いやりのある行動を行うことが大切であることを理解できるようにしていきたい。同時に思いやりのある行動を広げていこうとする態度を育てていきたい。

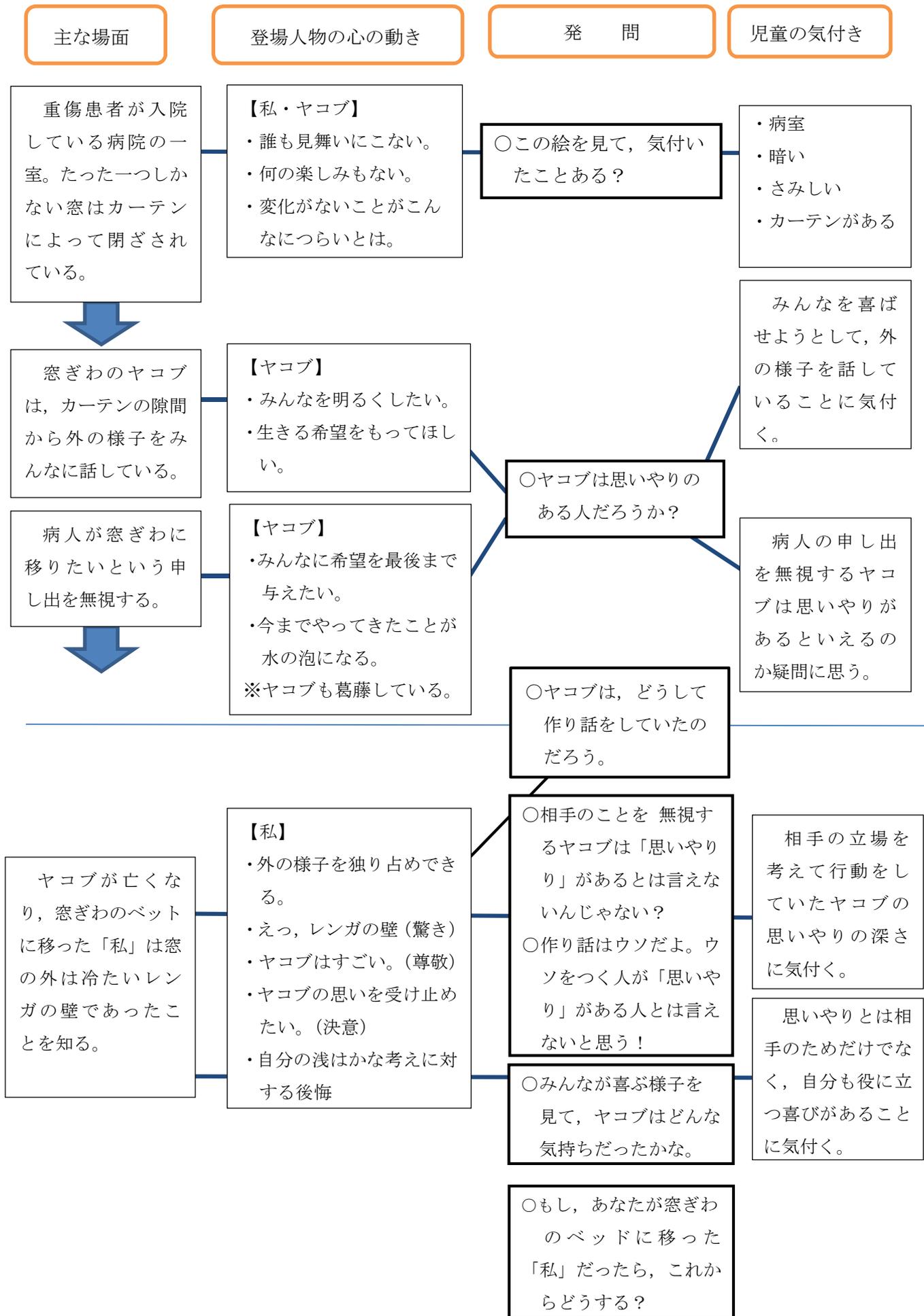
(2) 子どもの実態について

本学級の児童は仲が良く、標準学力調査 I - c h e c k 検査においても、「学級の絆」「学級での規範意識」項目は全国平均を上回っており安定した学校生活を過ごしている。また、思いやりの気持ちをもって接することが大切であるとは分かっており、最上級生として下級生に対し、優しく声を掛けたり手を差し伸べることもできる。しかし、友達同士になると相手の気持ちを考えられず、自己中心的な利己的な考え方をしてしまい、相手に嫌な思いをさせ傷つけてしまう場面もある。このような子ども達に相手の立場や気持ちを考え、思いやりの心を持ち行動することの素晴らしさに気付かせることや、自分ができることは取り組んでいこうとする気持ちを育てることは大切であると考えられる。

(3) 資料について

この資料は、もう治る見込みのない重傷患者達がベッドを並べて横たわっている病室内でのやりとりの話である。何の変化もない、つらい日々を送っている生活の中で、唯一の楽しみは窓に一番近いヤコブの話だった。その話は患者達の生きる希望になっていた。しかし、ヤコブだけしか外の景色を見られないことに対する不満を抱く「私」は、自分が窓際のベッドに移るために、ヤコブの死を願うようになる。ついに、ヤコブは息を引き取り、私はカーテンの外の景色を見ることができた。しかし、カーテンの向こうに目にした景色は、なんと冷たいレンガの壁であった。本資料は、ヤコブの言動を通して思いやりとは何かを考えさせるに適した資料であると考えられる。

(4) 資料分析



3 研究主題とのかかわり

(1) 研究テーマ

思考を深める道徳授業づくり
ー 発問の工夫を通して ー

(2) 研究目標

道徳の時間において、発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深める学習を行うことができるのではないかとすることを、実践を通して明らかにする。

(3) 研究仮説

道徳の時間において、発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深める学習ができるであろう。

(4) 発問の工夫

道徳編「3 学習指導の多様な展開 (4) 道徳科に生かす指導方法の工夫 イ 発問の工夫」によると、「教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要である。発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出される。そのためにも、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切である。」と示されている。

そこで、本研究においては道徳の時間が表面的な学びではなく、思考に深まりのある時間にするために、子ども達が分かったつもりでいる道徳的諸価値や物事に対して思考や認識に疑問や混乱を生むゆきぶり発問、批判的な発問、二つの概念が矛盾する発問、資料の主題を掘り下げ追求するテーマ発問などを組み込み、子ども達の思考を深める授業づくりにつなげていきたい。

4 本時の展開

(1) ねらい

ヤコブの言葉や行動を通して、相手の立場を考えて思いやりのある行動をすることの良さや、自分自身にも役に立つ喜びがあることに気付くことができる。思いやりのある行動は、何気ない日常生活の中にもあることに気付くことができる。

- (2) 準備 ・ワークシート ・挿絵 ・パワーポイント ・前半資料 ・ネームカード
・思いやり道徳めもり

(3) 本時の展開

	学習活動 主な発問	予想される児童の反応	働きかけや留意点
導入	1 思いやりのある人について考える。 思いやりのある人ってどんな人？		○授業前の「思いやり」に対する価値の自覚を確認する。
展開前段	2 挿絵を提示し、場面の様子を確認してから資料前半の範読を聞く。	・暗い ・さみしい感じ ・病室 ・小さなカーテンがある	○学習の見通しをもつ。 ○場面を想起しやすいように場面挿絵を提示する。

	<p>3 ヤコブの行動について考える。</p> <p>ヤコブは思いやりのある人だろうか？</p>	<p>〈思いやりがある〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外の様子をみんなに伝えているから。 <p>〈思いやりがない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無視したから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヤコブの思いやりに対する感じ方を確認するため、「思いやり道徳めもり」を掲示し、ネームカードを貼る。
<p>展開後段</p>	<p>4 資料後半を範読する。</p> <p>(1) 相手の立場に立って行動する思いやりの良さに気付く。</p> <p>ヤコブはどうして作り話をしていたのだろう。</p> <p>【想定されるゆさぶり発問・批判的发問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手のことを無視するヤコブは「思いやり」があるとは言えないんじゃない ○作り話はウソだよ。ウソをつく人が「思いやり」がある人とは言えないと思う！ <p>思いやりのある人ってどんな人だろう</p> <p>ヤコブは思いやりのある人だろうか？</p> <p>(2) 自分を犠牲にすることは思いやりではないことに気付く。</p> <p>みんなが喜ぶ様子を見て、ヤコブはどんな気持ちだったかな。</p> <p>5 真実を知った「私」に、自分を投影することで自分との関わりで考える。</p> <p>もし、あなたが窓ぎわのベッドに移った「私」だったら、これからどうする？</p> <p>【想定される ゆさぶり発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作り話の嘘を続けると、また誤解されたり苦しいこともあるからやめたら？ ○何の楽しみもない暗い生活に戻るの？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなを楽しませたい ・生きる希望や勇気をもってほしい。 ・少しでも明るい気持ちをもってほしい。 ・相手の立場に立って考え、相手の心を大切にできる人。 ・自分も役立ってうれしい。 ・自分も幸せ。 ・ヤコブと同じように外の様子を伝える。 ・嘘をつき続けるのは大変だから言わない。 ・ヤコブは嘘をついていたとみんなに言う。 	<p>視点1 発問は、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出すことに有効だったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヤコブが作り話の嘘をついていたことに触れ、ヤコブの生き方を批判的に見る場面をつくり、価値について更に思考を深める。 ○「思いやり」とは何かを言語化する。 ○展開前段と同じ発問を行い思いやり道徳めもりで心情の変化を確認する。 ○ヤコブの言動はヤコブ自身の喜びや幸せにも繋がっていたことを押さえる。 ○自分自身の体験やそれに伴う感じ方・考え方等を想起し、価値を自分自身との関わりで考える <p>視点2 道徳的諸価値について思考の深まりはみられたか。</p>
<p>終末</p>	<p>6 教師の説話を聞く。</p> <p>7 自己の学びを確認する。</p> <p>今日の学習や友達と話し合ったことをふり返り、「思いやり」について気付いたことや考えたことなどについて書きましょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場を考えて言動に表す思いやりだけでなく、「見守る思いやり」もあることについて押さえる。 <p>視点3 自己の生き方について考えを深めることができたか。</p>

(4) 評価

ヤコブの言葉や行動を通して、相手の立場を考えて思いやりのある行動をすることの良さや、自分自身にも役に立つ喜びがあることに気付くことができたか。思いやりのある行動は、何気ない日常生活の中にもあることに気付くことができたか。

5 ワークシート

☆ カーテンの向こう ☆

年 名前 ()

今日の学習や友達と話し合ったことをふり返り、「思いやり」について気付いたことや考えたことなどについて書きましょう。

また、これからの自分の生活に、いかしていけそうなことがあったら書きましょう。

Four sets of horizontal dashed lines for writing, enclosed in a rounded rectangular border.

【学習の振り返り】

- 1 今日の道徳の授業は楽しかったですか。
.....はい どちらかというとはい どちらかというといいえ いいえ
- 2 授業や友達との話合いを通して、新しい考えや気付いたことなどはありましたか。
.....はい どちらかというとはい どちらかというといいえ いいえ
- 3 自分の考えを話すことができましたか。
.....はい どちらかというとはい どちらかというといいえ いいえ
- 4 先生の話聞いて、「なんでだろう。」・「考えてみたい。」という気持ちになりましたか。
.....はい どちらかというとはい どちらかというといいえ いいえ
- 6 友達の考えで、さんこうになった人はいますか。 (名前)

6 検証授業の指導計画

実施日時	資料名・出典	価値	ねらい
1月8日 2校時	銀のしよく台 私たちの道徳 5・6年	B- (11) 相互理解・ 寛容	相互理解のためには謙虚な心で相手に接し、相手を理解し認めようとする気持ちを持つことが大切であることに気付く。
1月15日 2校時	犬も食わぬウソメ ール(毎日新聞) 私たちの 道徳5・6年	A- (1) 善悪の判断	インターネットやメールを利用するときは、自分の思いのままに行動するのではなく、節度を持つことの大切さや、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、自分に何ができるのか、自他の権利を尊重する中で果たすべき役割について考えることができる。
1月21日 5校時	江戸しぐさ 私たちの道徳 5・6年	B- (11) 相互理解・ 寛容	目には見えないが、人の心は傷ついたり壊れたりする。思いやりの心を持ち、相手の立場に立って言動することの大切さに気付くことができる。
1月27日 2校時	☆検証授業本時 カーテンの向こう 中学校副読本	B- (1) 親切・ 思いやり	ヤコブの言葉や行動を通して、相手の立場を考えて思いやりのある行動をすることの良さや、自分自身にも役に立つ喜びがあることに気付くことができる。思いやりのある行動は、何気ない日常生活の中にもあることに気付くことができる。

7 板書

思いやりのある人?
導入で授業前の「思いやり」に対する子ども達の価値を確認した。

場面の様子の挿絵 場面の様子を視覚で確認し、全員が場面理解できるようにした。

【批判的な発問】作り話はウソだよ。ウソをつく人が「思いやり」があるとは言えないと思う!

【ゆさぶり発問】相手のことを無視するヤコブは「思いやり」があると言えないんじゃない?

展開前段で主人公の行動を「思いやり」があるといえるか、いえないか、各々の考えの根拠を確認。

思いやり心情グラフ
主題についての自分の考えや立場を視覚で確認するために活用。

【どうしてヤコブは作り話をしていたのか。】
導入時と比べて、学習後の「思いやり」について思考を深めた。
ネームカード 主題に対する自分考えを明確にし、思考の変容を視覚化した。

8 「思考を深める道徳授業づくり」につながる指導方法の工夫

(1) 道徳科の特質を生かした学習指導とは？

道徳編によると、「道徳科の指導においては、児童一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切である。それと共に、児童自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められている。」と明示されている。

(2) 道徳科に生かす指導方法の工夫

道徳編によると、「ねらいを達成するには、児童の感性や知的な興味などに訴え、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話合うことができるように、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて最も適切な指導方法を選択し、工夫して生かしていくことが必要である。」と示されている。

そこで、本時ではねらいと研究テーマに迫るため、以下の指導方法を工夫した。

① 導入の工夫

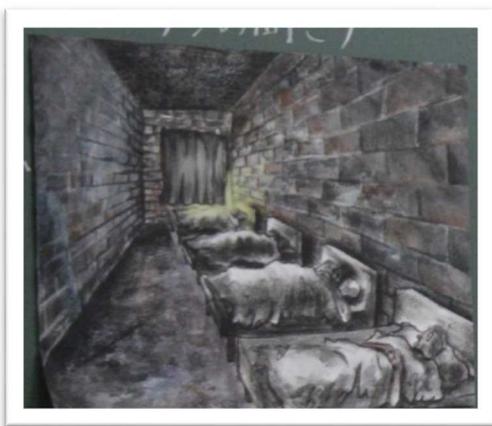


写真1 場面挿絵の提示

道徳編には、「導入は、本主題に関わる問題意識を持たせる導入、教材の内容に興味や関心を持たせる導入などが考えられる。」と示されている。

そこで、本時では導入時に「思いやり」に対する価値の自覚を確認後、資料に出てくる場面挿絵を提示し、興味・関心を高めるようにした。また、これまで特別支援の必要な児童がなかなか場面把握や状況理解が困難だったため、資料の場面挿絵を提示することで、視覚に訴え理解を促せるように工夫した。その結果、場面把握のための発問の連発がなくなり、価値の追求把握に時間をかけることができ、効果的であった。

② 話し合いの工夫



写真2 赤白帽子をかぶり立場を明確に！

道徳編には、「話し合いは考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話合われるように工夫する。座席の配置を工夫したり、討議形式を進めたり、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れたりするなどの工夫も望まれる。」と示されている。

本時では、グループと学級全体で討議する話し合いを取り入れた。展開後段で「もし、あなたが窓ぎわのベッドに移った『私』だったら、これからどうする？」という発問から、自分の立場を明確にするために赤白帽子をかぶり、二項対立の手立てを講じた。その結果、子ども達は自分の考えを自分の言葉で伝え合い本音で語り始めた。これこそが主体的な学びと思考が深まっていく場面であり、道徳授業ではこうした瞬間をつくりだすことが最も必要であると感じた。

③ 道徳メモリの活用

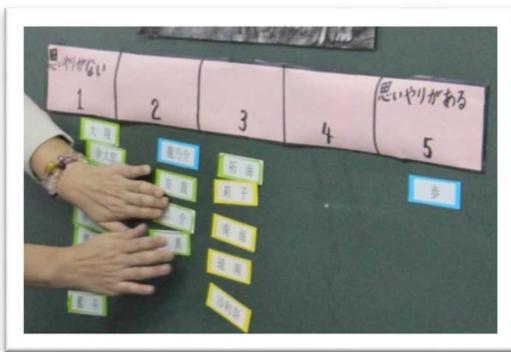


写真3 心情レベルを表し他者理解へ繋げる！

展開の前段と後段で「ヤコブは思いやりがある人だろうか？」と同じ発問を行い、「思いやり」に対する意識の変容を視覚で捉えさせるために「道徳メモリ」を活用した。

また、「道徳メモリ」の活用を通して「思いやりのない」という意見の中にも「全くない：レベル1」程度、「ほとんどない：レベル2」程度の児童や、「思いやりがある」と考える児童もおり、同じ資料や主題からも感じ方や捉え方は一人一人違うことを確認し、他者理解にもつなげるようにした。

④ 資料提示の工夫

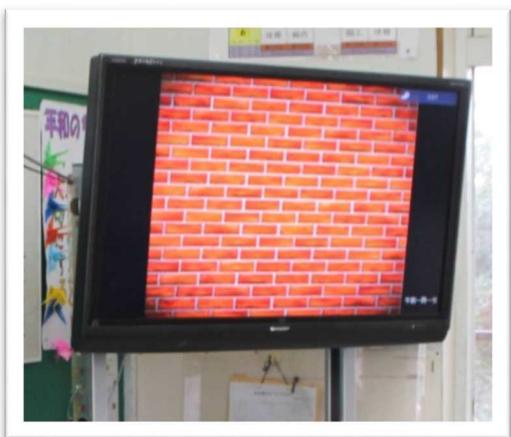


写真4 映像の活用

道徳編には「教材を提示する方法は読み聞かせ、紙芝居、影絵、人形、ペープサート、映像などの工夫が考えられる。また、精選した情報の提示により想像を膨らませ、思考を深める上で効果的か留意する。」と示されている。

本時では展開後段のクライマックス場面で壁の映像を提示し、「どうしてヤコブは作り話のウソをついていたのだろう。」と中心発問を行った。また、「無視」・「作り話の嘘」の言動についてゆさぶりの発問・批判的な発問などを仕組み、子ども達がこれまでが分かっているつもりになっている道徳的諸価値に対して、思考や認識に疑問や混乱が生じるようにした。刺激のある映像とこれらの発問により、今までの観念的な考えから、子ども達は「思いやり」を多面的・多角的に考え始めた。

⑤ 説話の工夫



写真5 「見守る思いやり？」

道徳編には、「説話とは、児童がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるようにするものである。教師が意図をもってまとまった話しをすることは、児童の思考を一層深め、考えを整理するのに効果的である。また、児童への叱責、懲戒や行為、考え方の押し付けにならないように注意する必要がある。」と示されている。

本時では相手の立場に立って言動する「思いやり」について学習展開をしてきたが、説話では「見守る思いやり」を取り上げ「思いやり」を更に多面的・多角的に捉え、思考が深まるように工夫した。

9 読み物資料 (授業者一部改作)

資料前半

カーテンの向こう

ここは、ある病院の一室である。窓はたった一つしかなく、しかもそれは、ぶあついカーテンによって 外のけしきは全く見えない。

うす暗い室内には、寝たきりで、身よりのない重傷な病人が、ベッドに横たわっている。かんじゃ達は、うつろな目を天井に向け、ただ時が過ぎるのを じっと待っている。看護婦達もあまり来ない。見舞いの客は、今まで一人も来たことがない。何の楽しみもない。変化のないことがこんなにつらいとは・・・。

そんな中で たった一つの楽しみは、窓に一番近いヤコブが カーテンのほんの小さなすき間に顔をつっこんで、外の様子をながめ、みんなに 話してくれることだった。

今日もヤコブは、とても しんどそうに身を乗り出して、すき間に顔を近づけ、「今日は雨がふっているぞ。でも、子ども達が水たまりをピチャピチャやって遊んでいるよ。」

と話した。すると、となりの病人が

「子どもは元気だな。」

すると、またとなりの病人も

「わしにも孫が二人いるが、大きくなっただろうな・・・。」

と話してくる。

ヤコブが外の様子を話している時だけは、暗い病室に期待と夢が、入りこんでくるのであった。

しかし、ヤコブが眠ってしまうと、どんなに外の様子が知りたくても どうしようもない。

動けない体をじりじりさせながら、ヤコブの話を待つしかない。

そのうち 私は、何となくヤコブが にくらしくなってきた。

みんなだって、外の様子が知りたい。みんなだって、あこがれている。

ベッドの場所を 変えてほしいと思っている。

しかし、ヤコブは がんとして その窓ぎわのベッドの場所を ゆずろうとしない。

みんなが行きたがっている 窓ぎわのベッドは、一番古くから この病院にいるヤコブの特権だったから。

ある時、こんなことがあった。特に病気の重い病人が

「ねえヤコブさん。どうやらお迎えが来たようだ。今日一日だけでもいいから、

ベッドを変えてくれないかい。少しだけでもいいから。」

しかし、ヤコブはその願いを無視した。翌朝、病人は冷たくなっていた。

そのできごとをきっかけに、私の中にヤコブに対する別の思いがめばえた。

私だって外が見たい。窓ぎわのベッドに行きたい。そうだ、ヤコブが死ねばいい。

そうすれば、二番目に古い 病人の私がそのベッドに行けるのだ。

その日から 私は心の中で、ヤコブの病気が重くなることをひそかに願った。

【スライド①】

その年は、例年になく寒かった。
どうやらヤコブの様子がおかしい。
みんなはいつものように
外の様子を聞きたがったが、
今日のヤコブは話したがらなかった。

【スライド②】

その晩、ヤコブはしぼり出すような
声で言った。
「明日は・・・いい天気だよ。
星がいっぱい出ている。
きっと・・・ いい日になる。」
そこまで言うとヤコブは息絶えた。

【スライド③】

みんな悲しんだ。私もみんなと
いっしょに悲しい顔をしていたが、
どこかで笑っている自分がいた。
いよいよ私は、窓ぎわのベッドに
移ることになった。私は、そこから
見える外のけしきに期待に胸がふくらんだ
そこから、見えたもの・・・。
カーテンの向こうは、なんと・・・。

【スライド④】



写真6 多様な考えが引き出された

今日の道徳の授業は、筑波大学の教授や、他校の先生がくるのに、
なぜか私は平然としていました。なので、いつも通りに意見を言えました。
また、道徳は、物事を深く考えるという私の短所が長所になった
気がします。

資料6 自己肯定感の高まりが見られた感想



写真7 話合いの様子



写真8 できるだけ近くで場面挿絵を見る！

10 本時の成果と課題

指導助言：琉球大学教育学部 上地完治 教授

【成果】

- 研究テーマ及びサブテーマが短くシンプルで良い。研究内容が散漫にならず研究の視点が明確になる。短い研究期間を充実させるためには、研究もシンプルにする方がより深まる。
- 本日の授業で一番の山場であり授業が盛り上がったのは、指名なしでも話合いが始まった場面である。子ども達の対話が自然に始まる場面をどんどんつくれる授業を展開していくことが大切。
- 授業前半は先生が思考のルールを敷き、その後、子ども達に考えさせている。自分の考えを出発点にして、自分ならどうするのか子どもの言葉で授業をつくるのが大切であり、そのことで考えが自分のものとなっていく。
- 終末の説話は良かった。思いやりについて、さらに多面的・多角的に捉えることができた。
- 先生が子ども達の意見に耳を傾け、子ども達に話をさせようとしていた姿勢が良かった。

【課題】

- ◇「どんな気持ちで作り話の嘘をついていたのだろう。」の後は、一人でも考えられる場面である。一人で考えることが難しいことをみんなで話合うことがグループ活動の目的。活動は何のために行うのか、しっかりねらいを持って取り組むことが大切。
- ◇「どんな気持ち？」の発問によって「うれしい・楽しい」という意見も出たが、首を傾げている子どももいた。しかし、先生は好ましいと考えられる発言だけを取り上げていた。学習についてこれない子どもにこそ、考えを確認し授業をつくるのが大切。
- ◇展開後半に、子ども達の身近な生活にある思いやりのある行動についての発問をしていた。あの場面は授業前半及び資料とかけ離れすぎている。授業で思いやりについて深まったことを確認した方が良かった。(思いやりって難しいね。いろいろな思いやりがあるんだね等。)

【その他】

- 道徳は初めから常識を扱っているから、なかなか思考が深まらない。子ども達の思考を深めるためには、刺激が必要。刺激を与える課題・発問を取り入れることが大切。心の中にざわつきが起こる刺激を与えることで思考が深まっていく。
- 子ども達の考え方は一人一人違う。違うという意識から出発する授業づくりが大切。
- ワークシートに記入する時間があるなら、子ども達同士で話合いをした方がよほど思考が深まる。学びを2～3分の僅かな時間でまとめるのではなく、宿題で今一度、今日の授業について考える時間をもつ方が、より学びが深まるであろう。

【参観者の感想】

- 授業の進め方、子ども達の考え方、発表、そして次期「道徳の授業」で主となる話合い活動等が活発で、子ども達全員の感想を聞くことができるととても良かった。
- ゆさぶり発問はすごく良いと思った。ゆさぶり発問をすることで思考を深めることができていると思った。
- ◇自分を犠牲にすることは思いやりではないことに気付く場面の発問が、児童には捉えにくいと感じた。



写真9 授業後の指導助言及び講話

Ⅶ 結果と考察

1 調査研究の結果

(1) 調査概要

① 研究対象となる児童たちに、発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えが引き出すことができ、道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深めることができるか、検証授業を通して調査する。

② 調査内容・方法

事前のアンケートの結果をもとに、本学級で最も課題として浮き彫りにされた内容項目「B 主として人との関わりに関すること」について調査を行った。

③ 調査時期

1回目：平成27年10月13日（火）

2回目：平成28年 1月27日（水）

(2) アンケート結果

①友達の考えを聞いていろいろな考え方があったことや、考え方の違いがあることに気が付くことがありますか。

検証前「はい」と答えた児童は22%だったが、検証後は61%に増加。「どちらかというとはい」も加えると、全児童が多様な考え方・感じ方があることに気付いている。その理由として、「自分と友達の考えを比べてみるが増えたから。」「よくよく聞いてみると、僕とは違う意見と思うことがある。」「友達の意見を聞いて考えが変わることがある。」などと述べていた。

発問の工夫を行うことで、多様な意見や考えが引き出され、話し合いを通して、思考の深まりがみられたことが確認できた。

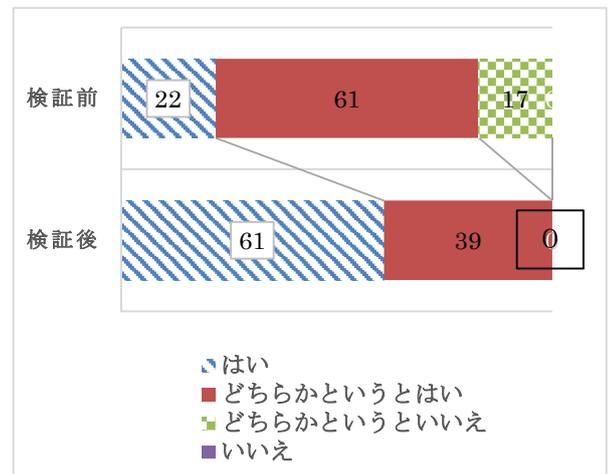


図1 アンケート結果①

②道徳の時間に自分の考えを話すことができますか。

検証前「はい」と答えた児童は0%であった。しかし、検証後は「はい」が44%に増加。「いいえ」と答えた児童は22%から0%と変容した。その理由として「友達の考えを聞いてなるほどと思ったとき、自分の考えも話すことができました。」「友達とよく話合っているうちに、けっこう自分の考えも話せるようになっていく。」などの感想がみられた。

他者の考えや意見を聞いて自分の考えが深まったり変わったりし、自分の意見を話せる児童が増えたことは、成果であると考えられる。

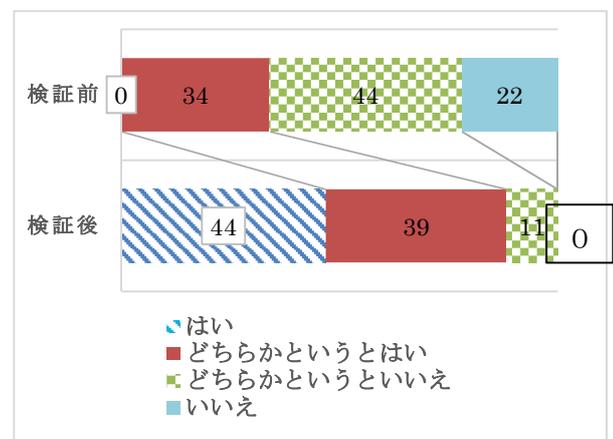
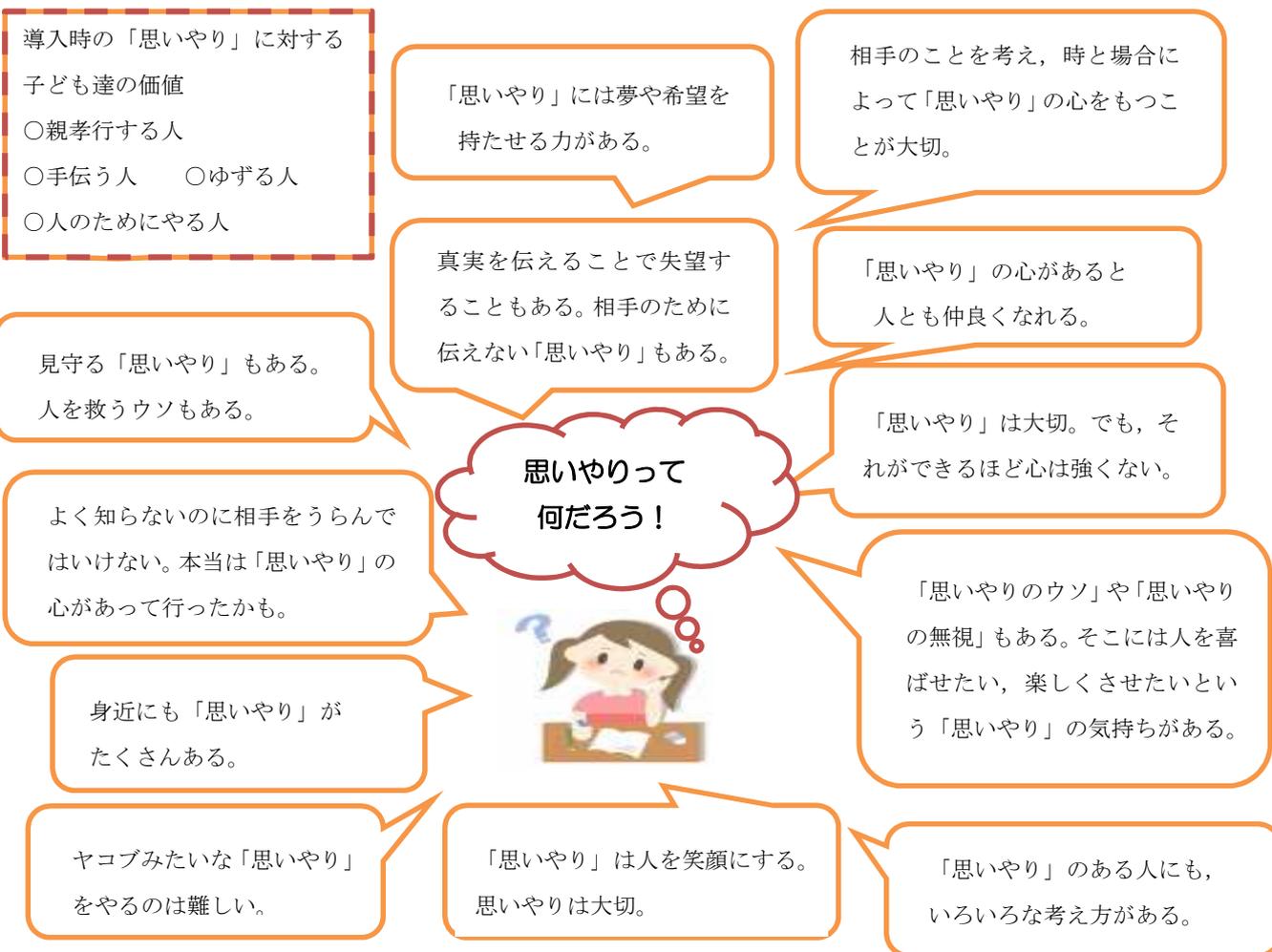
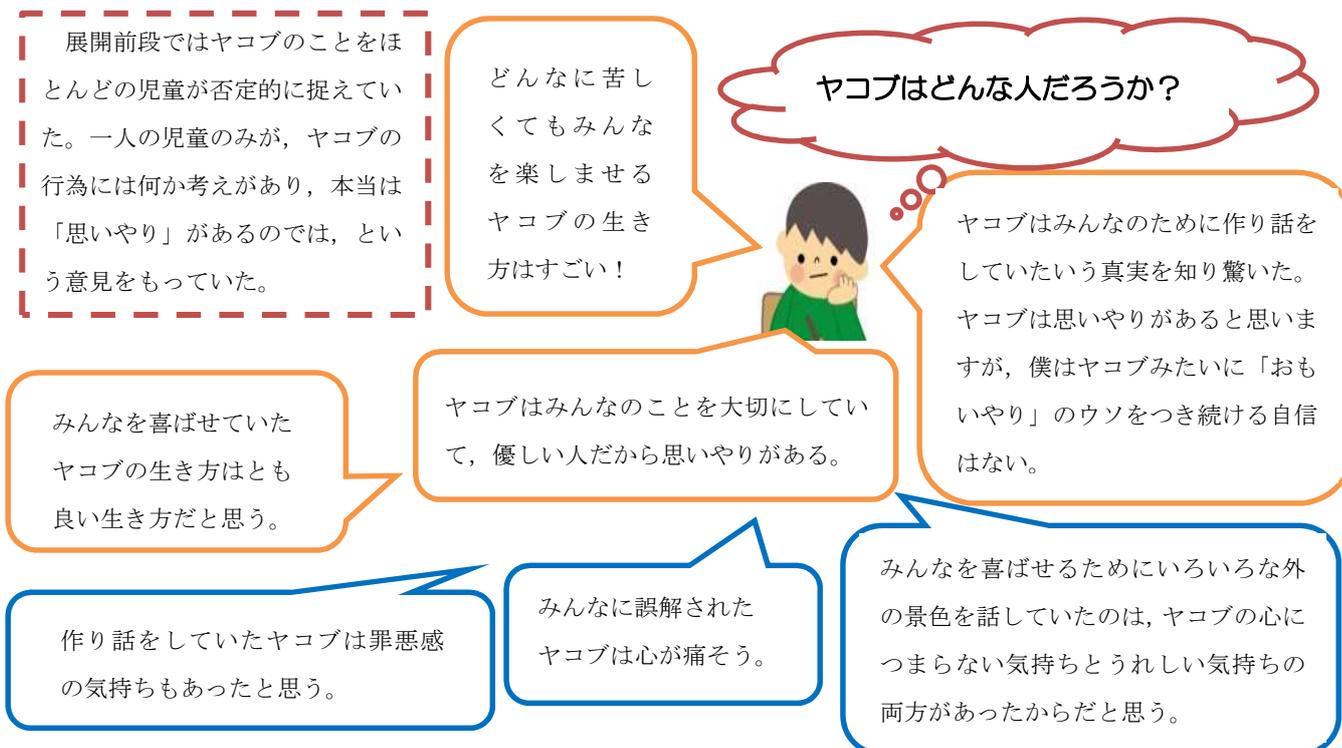


図2 アンケート結果②

(3) 「思いやり」・「ヤコブに対する考え」について児童の思考の変容を整理した。



資料7 展開後段での「思いやり」についての子ども達の考え



資料8 展開後段でのヤコブに対する子ども達の考え

2 仮説の検証

視点1 発問は物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出すことに有効だったか。

発問構成	発問の意図	児童発言
【中心発問】 ○どうしてヤコブは作り話をしていたのだろう。	○相手の立場を考え、相手の気持ちを想像することを通して、励ましや親切を行う「思いやり」の大切さに気付く。	☆みんなに夢や希望をもたせるため。 ☆みんなに少しでも病気のことを忘れさせたい ☆みんなを喜ばせたい。 ☆患者の心を元気にさせて回復させたい等。
相手の立場を考え、相手の気持ちを想像することで、励ましや親切にするという「思いやり」の道徳的価値に気付いた。		
【ゆさぶり発問】 ○相手のことを無視するヤコブは「思いやり」があるとは言えないんじゃない？	○分かったつもりでいる「思いやり」の道徳的価値について、多面的・多角的に捉え、思考を深める。	☆真実を伝えることで失望させたくないという「思いやりの心」がある。 ☆相手のことを大切に考えたから無視した。やっぱりそれも「思いやり」だと思う。 ☆「思いやりの無視」もある等。
二つの概念が矛盾したゆさぶり発問を仕組むことで、「思いやり」について観念的な理解だけでなく、より多面的・多角的に捉えることができ思考が深まってきた。		
【批判的な発問】 ○作り話は嘘だよ。嘘をつく人が「思いやり」がある人とは言えないと思う！	○ヤコブの生き方を批判的に見る場面を取り入れることにより、「思いやり」について更に深く考える。	☆時と場合がある。この場合は「思いやりのあるウソ。」 ☆本当はヤコブも心が痛くなっている。それでもウソまでついてみんなを喜ばせようとしている。「思いやり」がある証拠等。
ヤコブを批判的に問うと、病室のみんなに対して「思いやり」の気持ちがあったからこそ、そのような言動に至ったというヤコブの「思いやり」の深さや心の強さにも気付いた。		
【自己を見つめる発問】 ○もし、あなたが窓ぎわのベッドに移った「私」だったら、これからどうする	○自分自身の体験やそれに伴う感じ方・考え方等を想起し、価値を自分自身との関わりで考える。	☆時と場合を考えながら、ヤコブみたいに話してみんなを喜ばせたい。 ☆心が強くないからヤコブみたいにはできない ☆ヤコブの「思いやり」を引き継いで、みんなを元気にさせたい等。
これまでの自分の経験や学習で習得した考えと照らし合わせながら、自分の事として考えを深めた。価値の良さ、困難さ、多様さについて思考が深まった。		

★考察 以上により、テーマ発問、ゆさぶり発問、批判的発問、自己を見つめる発問など発問の工夫を生かした学習活動は、物事を多面的・多角的な考えを引き出すことに有効であることが分かった。今後は、心の中にざわつきが起り、刺激を与える発問について、更に研究を深める必要がある。

視点2 道徳的諸価値について思考の深まりはみられたか。(価値理解・人間理解・他者理解)

1 価値理解

発言やワークシートから、相手の立場を考え相手の気持ちを想像することを通して、励ましや親切を行う「思いやり」の大切さに気付いた考えを見取ることができた。

思いやりの心があると人とも仲良くなれる。
人を笑顔にするので、思いやりの心は大切
だなあと思いました。
これから思いやりの心をもって人を笑顔
にしていきたいと思えます。

資料9 「思いやり」についての価値理解が深まった

友達が困っていたら、助けてあげようと思
う気持ちがもっと強くなりました。とても
り学習になりました。

資料10 道徳的実践意欲の高まりがみられた

2 人間理解

28%の児童に「大切なことは分かっているけど、それができるほど心は強くない。」「ヤコブみたいな思いやりをやる自信はない。」「ヤコブは罪悪観のある思いやりだと思うから、苦しくて自分にはできない。」など、道徳的価値の大切さは分かるが、なかなか実現することが難しいという人間的な弱さについての意見もあり、これまでのような表面的な意見だけを述べていた子どもの中に、本音で語る姿がみられた。

私は、ヤコブが優しくなると、ヤコブの見ていたのは外の様
子ではなく、心だったというのを聞いてみて、おどろきました。
ヤコブはみんなのために作り話をしていたという事実を
知り、ぼくにはヤコブみたいに思いやりの力をつきつける
自信はあてないなと思えました。これからぼくも
思いやりのある人になれるように頑張りたいです。

資料11 人間理解が深まった

3 他者理解

資料7より、導入時には「思いやり」に対して漠然としていた考えが、展開後段では「思いやり」に対して「思いやりは夢や希望を持たせる力がある。」「時と場合によって、思いやりの心をもつことが大切。」「相手のために行動するだけでなく見守る思いやりもある。」等、子ども達は一面的な価値理解ではなく多様な考え方・感じ方をもつことができた。

思いやりがある人にも色々な考えがあるんだ
と思えました。これからは、ヤコブみたいに思いや
りのある人になって人のために努力しようと思えます。

資料12 他者理解が深まった

私は「思いやり」には夢や希望をもたせたり悲しませ
たくはなかったりするものもあるんだと思えました。
みんなの生活で、思いやりを忘れないでやっていこうと思いま
した。

資料13 「思いやり」を多面的に捉えることができた

☆考察 以上により、道徳的諸価値（価値理解・人間理解・他者理解）についての思考を深めることができたことが分かった。今後も、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させる学習に終始することのないように十分配慮し、道徳授業づくりを推進していくことが大切であると考えます。

視点3 自己の生き方について考えを深めることができたか。

1 友達の考えを聴いたり主人公の言動を通して、今後、自分ならどうするか考えることがある。

検証前には31%の児童が「はい」と答えていたが、検証後は72%と増えている。また、検証前は「自分ならどうするか考えることがない」と答えた児童13%が、検証後は0%となり変容がみられた。

検証授業を重ねるにつれて、学習したことを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いが高まってきたことが分かった。

2 道徳の時間に考えることは楽しいですか。

検証前は22%の児童が「はい」と答えたが、検証後は56%に変容している。検証前は「そこまで本格的じゃないから。」「つまらないから。」という理由で「いいえ」と答えていた児童も「前の道徳の時間より楽しくなって、考えることがおもしろいときがある。」「友達と話すために一生懸命考えるようになっている。」などの意見の変容もみられた。以前のように決まりきった答えとなる発問を用意したり、解決（結論）の一致を求めずに、多様な意見を通して共に考え、話し合いで出たものが答えとなる体験を積み重ねることで、自分なりに一生懸命考えようとする姿勢が見られるようになってきた。

3 「思いやり」について自分との関わりで考え、実現しようとする思いを深めることができたか。

検証後には、約83%の児童が「時と場合を考えて思いやりのある行動をしたい。」「思いやりの心をもって他の人のことも考えられる人になりたい。」「思いやりの心をもって人を笑顔にしていきたい。」など、ねらいとする価値を自分自身の生活に結びつけて捉えている姿がみられた。しかし、「思いやりは身近にあることが分かった。」と客観的な感想に終始する発言も見られ、自己の生き方について考えが深まったとは言い難い児童の姿もあった。

4 反省と内省

新宮(2017)は「小学校の段階では子どもに自分の心を否定的に見つめさせる反省よりも、自分の心にある人間の良さを肯定的に見つめさせる内省が大切。」と述べている。ワークシートの振り返りを分析すると、「思いやり」の心を自己の生き方として実現していこうとする思いを高めることはできたが、自分の心にもある「思いやり」の良さを見つけ、自己肯定感の高まりや内省が見られた児童は6%に止まった。

★考察 以上により、ほとんどの子ども達が学習したことを自己の生き方として実現していこうとする考えを深めていたことが分かった。今後も、拙速に理解を求める授業にならないように留意することや、自分との関わりで考えることが十分でない児童に、発問や内省を意識した振り返りなど指導方法の工夫を行い、自己の生き方について考えを深める授業づくりを行うことが大切であると考える。

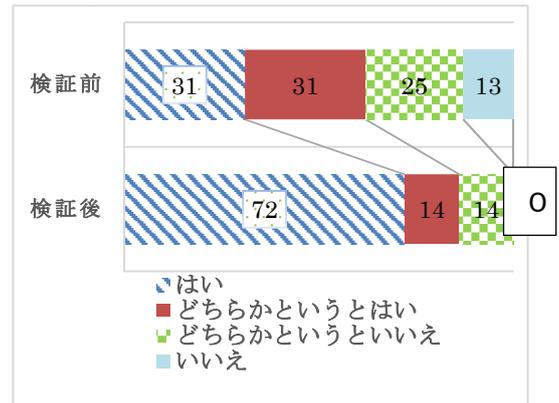


図3 アンケート結果

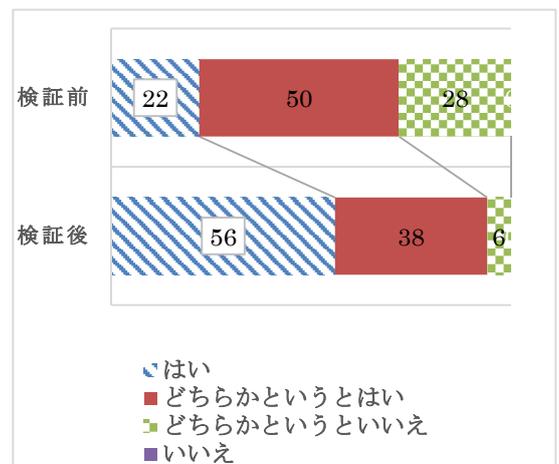


図4 アンケート結果

Ⅷ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 発問の工夫を取り入れた学習活動を行うことにより、道徳的諸価値について理解を深めることができた。
- (2) ゆさぶりの発問、批判的な発問、テーマ発問など発問の工夫を取り入れた学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出すことができ、思考の深まりに有効であることが明らかになった。
- (3) 学習したことを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを高めることができた。
- (4) 他者の多様な考えや意見を聴いて自分の考えが変容したり、更に自分の思いを深める児童や自分の意見を積極的に話せる児童が増えた。
- (5) 「道徳の授業が好きになった。」という児童が増加し、道徳授業への意欲が向上した。

2 課題

- (1) 心の中にざわつきが起こり、刺激を与える発問の工夫。
- (2) 自己肯定感の高まりや内省を意識した振り返りの工夫。
- (3) 学習活動の意図を明確に持ち、指導方法を吟味した上で授業に生かせるようにする。
- (4) 客観的な考えに終始している児童に対して、自分との関わりで考えられるような発問の工夫。
- (5) 学習についてこれない児童に対して、考えを確認し学習に反映させる授業づくり。

【参考文献・引用文献】

- | | | | |
|-------|------|--|------------------------------|
| 文部科学省 | 2015 | 初等教育資料「特別の教科 道徳」の実施に向けて | 『東洋館出版社』 |
| 上地完治 | 2015 | 子どもを学びの主体として育てるとともに未来の社会を切り拓く教育へ | 『ぎょうせい』 |
| 上地完治 | 2005 | 社会構成的な道徳教育の創造へ向けて | 『琉球大学教育学部紀要 第67集』 |
| 上地完治 | 2015 | 道徳の教科化の意味
ー 道徳の時間の特設から積み残された課題 ー | 『教育哲学会 教育哲学研究 第112号』 |
| 加藤宣行 | 2015 | 実践から学ぶ 深く考える道徳授業 | 『光文書院』 |
| 加藤宣行 | 2015 | 道徳授業を変える教師の発問力 | 『東洋館出版社』 |
| 新宮弘知 | 2015 | 子どもの道徳NO, 109「道徳に係わる教育課程の改善等について」を読んで
～道徳教育の改善方向を考える～ | 『明治図書株式会社』 |
| 永田茂雄 | 2015 | 道徳科としての授業の準備
～どんな視点に着眼して取り組むべきか～ | 『上廣倫理財団 第20回 道徳教育シンポジウム 提言3』 |
| 坂本哲彦 | 2014 | 道徳教材ベスト40 | 『東洋館出版社』 |
| 赤堀博行 | 2013 | 道徳授業で大切なこと | 『東洋館出版社』 |
| 上地完治 | 2011 | 価値多様化社会における学校の道徳教育 | 『琉球大学教育学部紀要 第67集』 |
| 加藤宣行 | 2010 | 学級担任が自信をもって行う道徳授業 | 『学事出版株式会社』 |

【指導助言】

琉球大学 上地完治 教授